中遠支部と「盆栽いくま」が全面協力、植物育成光源を装備した「サイリウム」が完成！

今年3月からずっと黒松や山あじさいを栽培している「サイリウム」。まだ生産試作の段階で実験データの件数も少ないが、ベテラン愛好家や盆栽店の協力を得て、実用段階に入った期待の設備である。開発者によれば、先行の「ガーデンインテリア」を設置した病院や会社で、それまで花を育てた経験のない人が世話をするようになり、だんだん花が好きになる事例があるという。この「サイリウム」で盆栽を室内できれいに育てることができれば、盆栽趣味を家族と共有できる時代になるかもしれない。

先行する室内プランター「ガーデンインテリア」は３年前からカフェ店内で運用されている。

浜松市郊外の喫茶店に設置されていたのは、「サイリウム」の登録商標（出願中）で実用化された、「太陽に限りなく近い植物育成光源」による盆栽培養システムです（開発／㈱アイ・アンド・プラス Bloom Field 事業部）。２００４年の浜名湖花博をきっかけに開発が始まり、静岡大学工学部教授で光の専門家の神藤正士先生との連携のもと、実証実験を繰り返してきました。

今年３月より、中遠支部のメンバーや「盆栽いくま」西岡氏らが実験に協力し、黒松や山アジサイの顕著な成長ぶりを確認。そのまま水やりもでき、排水口から下のタンクに貯まる仕組みです。現在は完全受注生産で商品化が果たされたばかり。当面は「盆栽いくま」の西岡氏が代理店を務めますので、お問合せは前ページ記載の連絡先まで。

支部員経営の盆栽専門店も！

盆栽専門店「頭山」の共同店主、中遠支部所属の大端　将さん（左）と陶器専門店経営の鈴木林太郎さん（右）。

２年前の６月、協会支部員である大端　将さん（38歳）が、浜松市内で盆栽と喫茶（抹茶）を楽しめる店「頭山（あたまやま）」をオープン。セレクトショップを兼ねた形態で、「盆栽いくま」で仕入れた盆栽に、陶器専門家がプロデュースする全国の作家鉢を合わせ、展示販売されています。お二人はインスタグラムで「盆栽ブラザーズ」を名乗り、動画で色々な知識を発信しています。

２月初旬、店頭に並ぶ盆栽や依頼された持ち崩し盆栽の手入れを、協会支部員５名が手伝う形で一斉に行ないました。見学者もあって講習会形式となり、上々の評判。寺田氏はその後も頻繁に通い大端氏と共に手入れを重ねており、来年は盆栽教室も予定しています。

古い建物のレトロな雰囲気とモダンさが演出された店内。主に土日を中心にオープンしているが、８月は全休するなど不定期ゆえ、右記インスタグラムでご確認を。

atamayama.bonsai

国風展バスツアー

新メンバーの合流を契機に、今年２月10日、５年ぶりの国風展見学旅行に出かけました。盆栽教室に参加する方など協会員外の方々17名も参加、女性５名を含む20～30代の方が半数を占めました。「おかげでバスの車内は終始若やいだ雰囲気であった。このようなことは、支部発足以来の大珍事であり、参加者からはさまざまの声を聞くことができた」と、日本盆栽協会機関誌『盆栽春秋』に寺田氏が投稿されています。

参加者からは様々な感想が聞かれましたが、初めて見る国風展の規模と内容に感動した人が多かったようです。中には初心者ながら大いなる刺激を受け、少し高価でもいい盆栽が欲しいと、即売で20～25年ものの樹を購入した人も。

意義深いツアーになったようです。

国風展ツアーの様子。初めて見る本格盆栽の数々に興奮気味のメンバー。

大学生の新入会員

今年入会したばかりの大学生会員、加藤平良さん（20歳）。盆栽に興味を持つきっかけは中３の頃、YouTubeで見たビオトープ系動画の中で見た盆栽風の庭。「盆栽いくま」を訪れるまでは一人で楽しんでいたという。

入会当時19歳だったという加藤平良さん。大学の授業を終え、展示会場に駆けつけてくれました。実家は浜松市ですが今は磐田市にある大学の寮に住み、持ち樹は現在約50鉢と挿し木などの素材がたくさん。盆栽は寮にも実家にもあり、自宅の分はご両親に水やりをお願いしています。

盆栽は以前から一人で楽しんでいましたが、昨夏初めて「盆栽いくま」を訪れ、盆栽教室に参加するうちにサポートする支部員さんから色々と教わりました。誘われて国風見学にも参加、自然な流れで世界も広がり、日盆協に入会しました。

「こういう協会や全国組織があるってことは知りませんでしたね。協会のメンバーさんは優しい方ばかりで、皆さんから親切に教えてもらえます。いくまさんのお店でも30代のお客さんが多いですけど、若い人がこうして経験のある先輩から学べるのはいいところですね」（加藤さん）。

［盆栽会の新しい可能性へ、まだまだ変革は続く！］

ここ十数年で盆栽への概念が大きく変わり、盆栽に熱視線を向ける若者も増えてきています。そんな若者のアイディアと行動力には目を見張るものがあり、ご紹介してきた通り、新たな活動が全国で起こっています。彼らの多くは単純に盆栽が好きというだけでなく、日本文化や伝統への関心の中、盆栽文化の状況が気にかかり、少しでも盆栽に関わる人々を増やしたいと本気で考えています。

そしてそういう活動においては、盆栽愛好団体のベテラン愛好家の力こそ意味を持ちます。豊富な経験や栽培知識をもって若い愛好家のサポートをし、新しい挑戦には背中を押す。総合力としての「盆栽への知見」こそ、ベテランならではの世界です。

盆栽作家、盆栽業者ではなかなか手の回らない普及という部分において、ベテラン愛好家への需要、その存在意義は大きいものがあります。中遠支部の好事例をご紹介しました。

展示会参加メンバーで集合写真。盆栽趣味の新たな潮流を捉えて全力でサポートする支部員の皆さん、充実の表情で記念撮影となった。ベテラン愛好家が世に求められる役割は、まだまだ尽きない。

月刊
近代盆栽
SEP.2024
KINBON
9
http://www.bonsai.co.jp
昭和53年3月2日第3種郵便物認可
令和6年9月1日発行（毎月1回1日発行）
通巻563号

特別実技　真柏らしさの探求
一流を超一流に磨き上げる！

特別企画１　改作実技で学ぶ
“図出し”の面白さ

特別企画２
添景使いの妙味・席飾り篇

近代盆栽美術館　第98回国風盆栽展より
国風盆栽展を彩った名木選

盆栽会の未来を考える
ある盆栽愛好団体の革新